

あらすじ

語り手 山口忠光さん
(明治40年生まれ)

昭和63年8月19日収録

昔、馬子が正月の鰯を買って馬に負わしてもどりよったら山姥が出て「馬子、鰯を一本(ごせ)にゃあ、われを取ってかんだる」てって。

一匹やったら、ぼりぼりかんで「まあ一本(ごせ)にゃあ、かんだるぞ」。みな鰯をやってしまっ
て、「馬の足を一本(ごせ)え」「馬ほだあ(ごせ)て「ごせ」ったら「こらえたるわい。腹が太い」で、いんでしまっただって。

馬子は腹が立ってかなわん。どこへ逃げるか見たると思つて、それから後をつけて行ったら山姥

馬子と山姥

(東伯郡三朝町大谷)



イラスト・福本隆男

鰯をくわれたかたき討ち

餅を囲炉裏へ焼いて、いっぺん焼かかか「ってこてこてしよった。その今度あ半分ほど取っと間に馬子はアマダ(草葺)たるもどいてきてや、き屋の2階にした物置部 その半分の餅を食って、屋へ上がって、長い棒「腹が太い、どこへ寝よをどぎらかいて、山姥がうかなあ」って。「釜へ逃げた留守へ餅を穴から寝」って馬子が言つと「神棒を突き刺して取ってしさんが釜へ寝って言いなまう。「神さんが取りなはるけえ釜へ寝よかか」はったかも知らん。もう言つて、そいから釜へ行

ちつて。」「こらえてごせえ、鰯「ああ、しめた」と思はもどすけえ」「どがして、それから馬子がアてもどすたい。もどいてマダから下りて、釜に蓋もらわいでもええけえ、あして、そこら周りにあおのれ焼き殺いたる」「こる石をみんな乗して、そな馬子、こらえてごせえいからその方に行つて枝や、こらえてごせえ言あ求めてきて、そいからつたけど、とつとつ山姥枝をぺちんぺちん折つて、その火を焚くやあに悪いことはしられんだあぺちんぺちんいいよっぞ。分かつたのう。昔こつぱり。

解説

関敬吾『日本昔話大成』では本格昔話の「逃竄譚」どつどついい出した。「どの中に「生方山姥」として分類されている話がこやんがて夜が明きようれである。山陰各地でもぞ」言いよつたら熱うな多く語られている。ただつてきて、「熱い、熱い、地方によって荷物を運ぶ熱い、熱い。」「こらどつ動物が牛である場合も多うこつた。まあ、熱いわ、く、この話型名になった熱いわ」言つて。「熱いよつだが、山陰では多くは当たり前だ、おどれが。は牛ではなく馬になつて鰯をくらつたり何だいまするけえ、おれは馬子だ。いるよつである。」(元鳥取短期大学教授)(水曜日に掲載)